

鐵 と 鋼 第二十一年 第 六 號

昭和十年六月二十五日發行

第二十周年記念號

論 說

卷 頭 の 辭

日本鐵鋼協會々長 野 田 鶴 雄

本會が創立されてから早くも二十年の星霜を重ね茲に多年の努力發展の結晶を盛つて記念號を公刊する運びに到りましたことは本會は申すに及ばず斯界全般に取りましても、極めて有意義なことであらうと信じ、私の最も欣幸とする所であります。今其の序を請はるゝ儘に、聊か所感を披瀝して祝賀の意を表したいと存じます。

願れば日本鐵鋼協會が創立されたのは、大正四年二月六日でありまして、野呂景義 香村小録 今泉嘉一郎 服部漸 俵國一の五博士主唱の下に會員七百名を以て本會は誕生したのであります。次いで翌年三月の第一回總會では、本會を法人組織に改め野呂博士が選ばれて、初代會長に就任せられ茲に本協會の基礎は確立致しました。彼の關東大震火災には折角出来上つた本會の建物も烏有に歸し貴重なる圖書類と共に資産の大半を失ひ困苦艱難の逆境に直面した場合もありまして今日の本協會の整然とした陣容の背後には、一個の成長した人士の體驗記に見る如く様々の起伏がありましたが、事に當り機に臨んで荆棘開拓の一つ一つを拉し來つて見ますれば二十年の歲月は短い様で永く、現在では二千有餘の多數會員を擁する本會の思ひ出は尾を引いて盡きません。

而して本會々誌「鐵と鋼」は大震火災の際印刷工場の復興を待つ間、餘儀なく二回

休刊しただけで、毎月發行を繼續して居ります。殊に我が「鐵と鋼」は學術的研究發表機關としてのみならず、工場の實際作業を基礎とせる技術的方面の報文も亦誌面に一偉彩を加へて居りますことは、一學術協會の會誌として大に異彩を放つて居るものであります。

會誌の發行の外、本會事業の主要なるものは、春秋二回の講演大會がありまして、春季は本會總會を兼ねて東京を開催地と定め、秋季は全國主要の大工業都市を選定して舉行し、又時には滿洲國に迄伸び、其の活動範圍は益々廣きものとなりました。又大會と同時に研究部會の開催を常例と致しまして、既に十一回を重ね該部會の主目的である本邦製鐵鋼業の振興助長及び實地作業に關する技術の進歩發達促進に貢獻したことは極めて多大でありまして、開催の都度好評裡に成果を收めることを得ましたことは至幸と申すべきであります。

其の他本邦製鐵事業振興の一半を擔ふを使命と考へまして、之等に關する調査及び時に建議を行ふ事もあります。更に附言致したきことは商工省の工業品規格統一調査委員會に於て制定せられました標準規格の複寫發行と鐵鋼標準試料を八幡製鐵所から委託されて、廉價に分配致し我國に於る鐵鋼分析を司る人々の便に供しつゝあります。

元來鐵鋼業界の發展を圖るには豊富なる資本に俟つことも、極めて必要なことではありますが、夫と共に鐵鋼製造に關する各種の問題を網羅して深遠なる學術的研究と設備の計畫、作業の實際と夫々相俟つて確實な歩を進めることが必要缺く可からざる事であります。本會今後の使命も亦實に茲に存すると申さねばなりませんまい。終りに臨み會誌二十周年記念號發行に當りまして御多忙中御執筆下された廿四名の各位に對し深甚なる感謝を表する次第であります。